

# 第1学年1組 学級活動学習指導案

日時：令和7年11月19日（水） 5校時 場所：1年1組教室 指導者：佐藤愛

- 1 題材名 「SNSの使い方を考えよう」学級活動（2）アよりよい人間関係の形成
- 2 指導目標 アサーションを身につけ、互いを尊重したコミュニケーションをとることができる。
- 3 題材設定の理由

情報化社会となった現代では、コミュニケーションは対面だけでなく、SNS上の非対面も非常に重要となっている。それに伴い、SNSを介したトラブルはいつ・どこでも・誰にでも発生しやすい環境にある。「情報モラル」について、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を育成し、非対面でのコミュニケーションをよりよくするための自分の在り方について考えさせたい。

生徒のメッセージ機能を含む情報機器の所有率は、自分または親の携帯77%、タブレット（学校のものを含まない）16%、オンラインゲーム端末29%であり、所有していない生徒は12%と少ない。多くの生徒がSNSを連絡や娯楽のツールとして活用していることがわかる。SNSは友人とすぐに連絡をとることができるため、便利なツールである。しかし、対面でのコミュニケーションとは異なる性質を伴うため、自分の意図したものは異なる反応が返ってくる場合もある。

指導の手段としてアサーション・トレーニングを通して、互いを尊重したコミュニケーション能力を育成したい。さらには、「NHK for school いじめをノックアウト」の資料を活用し、生徒がより思考を深めることができよう支援していく。

※「アサーション」とは、自分も相手も大切に自己表現

平木典子(2012).『アサーション入門 自分も相手も大切に自己表現法』.講談社.

※「アサーション・トレーニング」とは、自分も相手も大切に自己表現である「アサーション」の考え方や具体的なスキルを学び、実践を通じて身につけるための訓練

## 4 研究主題に迫るための手立て

### (1) 現職の研究主題

「主体的・対話的に学び考え表現し、自己実現ができる生徒の育成  
～認め合い、伝え合い、学び合う活動の工夫～」

### (2) 研究の方法【視点2】「認め合い、伝え合い、学び合う活動の工夫」

＜手立て1＞他者との意見の違いから学ぶ態度

他者との意見交流の場を設け、自分の伝え方と他者の受け取り方の違いに気づき思考を深められるようにする。

## 5 本時の目標

自分の伝え方と他者の受け取り方の違いに気づき、自他を尊重した返信を考えることができる。

## 6 学習過程

### (1) 事前の活動

| 活動の場 | 学習内容・活動       | 指導上の留意点          | 手段     |
|------|---------------|------------------|--------|
| 朝の学活 | ・アンケートの回答をする。 | 成績には関係しないことを伝える。 | ロイロノート |

(2) 本時の展開

| 段階  | 学習内容・活動  | 形態           | 時間          | ○指導上の留意点 ◎評価<br>■研究主題に迫るための手立て   |
|-----|--|--------------|-------------|--|
| 導入  | 1 「明日何してる？」に対する返信についての事前アンケートを確認する。  | 一斉           | 5           | ○ 私たちは無意識に予測をしながらコミュニケーションを行っていることを確認する。<br>○ 非対面だからこそ、考えてから返信ができることを確認する。   |
|     | 2 本時の学習課題を確認する。<br>こんなとき、どう返信したらよいのだろう？  | 一斉           | 1           |  |
| 展開  | 3 資料を見て、自分だったらどう返信するかを考える。<br>(1) 自分で考える。<br>(2) 班で共有する。                                 | 個<br>班       | 4<br>3      | ○ ロイロノートを用いる。<br><br>○ 3つ提示する結末は、それぞれどのような状態を示すかを全体で確認してから考えさせる。<br>○ ロイロノート共有ノートを用いる。<br>■ 他者との意見交流の場を設け、自分の伝え方と他者の受け取り方の違いに気づき思考を深められるようにする。(手立て1)<br><br>○ 机間巡視をし、相手を尊重しつつ自分の意見もしっかりと言えているか確認する。<br>◎ 自分の伝え方と他者の受け取り方の違いに気づき、自他を尊重した返信を考えることができる。(ロイロノート)<br>○ 班員の返信は、互いを尊重しているかを確認しながら分類させる。 |
|     | 4 この後の友人たちからの返信を予測し、班員それぞれの結末を3つに分類する。<br>①みんなハッピー<br>②私はハッピー・相手はモヤモヤ<br>③私はモヤモヤ・相手はハッピー | 班            | 7           |  |
|     | 5 自分の返信は互いを尊重したものになっているかを振り返らせる。   | 一斉           | 4           |  |
|     | 6 自分の返信を改善する。  | 個            | 5           |  |
|     | 7 4と同様の活動を行う。  | 班            | 6           |  |
| まとめ | 8 3の返信をよりよくするために意識したことをまとめる。<br>(1) 自分でまとめる。<br>(2) 班で共有する。<br>(3) 全体で共有する。              | 個<br>班<br>一斉 | 4<br>5<br>5 | ○ 本時の学びを言語化して表現できるようにする。<br>○ 自分と他者どちらにも目を向けて振り返らせるようにする。<br>○ 班の中で上手な返信を見つけさせる。<br>○ 数人の返信を紹介し、上手な部分を共有する。<br><br>○ 互いを尊重したコミュニケーションは非対面だけでなく、対面でも大切であることを伝える。  |
|     | 9 本時のまとめをする。<br>SNS でよりよいコミュニケーションを行うためには、互いを尊重した返信を心がけるとよい。                             | 一斉           | 1           |  |

(3) 事後の指導

帰りの学活で、コミュニケーションの際に自分の中で気をつけていること確認し、称賛し合う。